

能登半島災害ボランティア活動報告

神戸大学医学部医学科3年 Kobe Med Connect
奥珠希 佐藤健生 島津里彩

神戸大学基金からのご支援による「神戸大学生による能登半島地震 復旧・復興 災害ボランティア活動経費助成」制度を用いて、能登半島災害ボランティアに参加しました。全2回の参加概要と各々の体験談や学びをここに報告します。

参加したボランティア

ボラバス型災害ボランティア

石川県災害対策ボランティア本部が募集する、ボラバス型災害ボランティアに申込・参加しました。参加者は金沢駅に集合し、ボランティアする地域の拠点までバスで向かいます。

活動内容

- 被災した家屋の片付け
- 家財の仕分け
- 廃棄物の運搬 等

それぞれの体験

それぞれのボランティア先での体験を通して、貴重な学びや気づきを得ることができ、考え方にも変化がありました。

奥

主に4月に行った1回目の参加について

(4/3)

- 6:00 金沢駅到着・モーニング
- 8:45 金沢駅集合、バス出発
- 10:00 西山PA休憩、友達ができる
- 11:00 ベースキャンプ着、活動場所へ
- 活動① 瓦の回収
- 活動② 被災した住宅の片付け
- 15:30 活動終了、ベースキャンプへ
- 22:00 消灯

(4/4)

- 8:10 ベースキャンプ発
- 9:00 能登サテライト着
- 活動 被災した家屋の片付け
- 13:00 活動終了、金沢駅へ
- 15:30 金沢駅着、解散

自分より体力・経験のある人が行った方が役に立つのでは…？という不安

✓赤ちゃんを連れてお母さんとの出会い

ボランティアの私たちに、何度も「すみません」と言う赤ちゃんを連れてお母さん。「かわいい赤ちゃんですね。」と声をかけると、それだけでこわばった表情が柔らかくなったように見えました。その顔が忘れられません。



いろんな人が集まったチーム。写真は7月の時のもの

参加後の変化

知識も経験も大した体力もない、頼りない自分でも、「そんな自分だからこそこでもできるかもしれない」と考えるようになりました。あらゆる人が被災をしたのだから、あらゆる人が役に立てると気づきました。できる人が、できることを、できるときに関わることの大切さを感じました。

- 被災された方は老若男女・障がいの有無・国籍・出身地関係なく、“ただそこにいた人・住んでいた人”という当たり前のことの気づき
- 様々な得意分野・背景・属性の人が関わる大切さ

ベースキャンプでの不思議な時間



- ✓廃校となった学校を利用して開設
- ✓教室・体育館に寝泊まり
- ✓理科室が談話室に
- ✓4月はまだ断水、トイレは仮設

夜はかなり冷え込んだので、ベンチコートやアルミシートが重宝しました。

プライベートテントには段ボールベッドとマットを用意していただきました

各自夕食を済ませたのち、ふらっと談話室になっている理科室へ。持ち寄ったお菓子を食べながら、「どこから来たの」「普段は何をしているの」「どうしてきたの」「ボランティアは初めて？」と話しました。会社員から高校生まで、なんと自分と同じ医学生もいました。これまで経験したことのない不思議な時間でした。

ボランティアに来ている人たちは、ここでしか会わない、話さない人たち。それでもそこには温かい空気が流れていました。この不思議な時間は、私にとって大切なものになりました。

まとめとメッセージ

- 被災者には様々な人がいるため、多様な属性の人がボランティアに行ったり、関心を持ったりすることが、より柔軟な支援に繋がる。
- 支援の方法、関わり方には多くの方法がある（実際に行く、募金する、ニュース見る、発信する、被災地のものを買う）。
- 9月に発生した水害を含め、被災地の“今”に関心を持ち続けたい。できる形で関わり続けたい。
- 災害に備えて、被害縮小のための対策だけではなく、地域の復興力をあげるための取り組みも必要だと感じた。

行程 1回目

参加者：奥

4/3

夜行バスで神戸→金沢

能登町で家財運搬ボランティア

ベースキャンプ 宿泊

4/4

能登町で家財運搬ボランティア

帰宅

2回目

参加者：奥、佐藤、島津

7/5

夜行バスで大阪→金沢

佐藤 奥 島津

輪島市

能登町柳田地区

帰宅

ベースキャンプ 宿泊

7/6

島津

柳田で家財運搬ボランティア

帰宅

佐藤

- 6:00 金沢駅到着
- 6:35 金沢駅集合、バス出発
- 9:30 輪島市サテライト着
- 10:00 6つのグループに分かれ活動場所へ
- 1件目：荷物の納屋への移動、廃棄
- 12:30 午前の作業終了、お昼ご飯
- 13:30 お昼休憩終了、再度活動場所へ
- 2件目：屋根裏荷物の撤去
- 15:30 活動終了、サテライトへ
- 16:00 サテライト発
- 20:00 金沢駅着、解散



～グループでの活動～

あだ名をつけたり話題を振ったり、チームの会話を弾ませてくれたHさん 時間管理も完璧でした

被災者の方とよくお話をされ、気配りがお上手だったMさん 被災者の方も和んでいらっしゃいました

ボランティア19回目の超ベテラン！ 段取りや作業が迅速な「師匠」ことSさん

最年少！ 初参加で不慣れだが力仕事は得意な私

4人グループで2件を周りました。どちらも家の解体のために家財を運びだしました。

災害ボランティアって、がれきの撤去とか力仕事ばかり 初心者が行って大丈夫？

- 災害ボランティアは荷物の運搬だけでなく、チームの作業、被災者の方との会話など多彩な要素がある
- 色々な人がいることでチームが向上しより良い活動になるのではないかと

～素人ボランティアの限界～



横転する輪島塗りの会社の建物



朝市は大規模な火事により甚大な被害



道路は所々陥没や隆起をしていました

上の写真は、被災者の方の家に行く途中で撮影したものです。基本的に写真は控えるように言われていましたが、情報発信のためならと許可をいただきました。これらの復興は素人ボランティアの手に負えない案件です。いくら素人のボランティアが入っても、出来ることは倒壊の危険のない場所に赴き、手で荷物を運ぶことくらいであり、無力感を感じました。

また現地は金沢駅から遠く、ボラバス型のボランティアでは1日せいぜい4時間が5時間しか活動できません。

輪島市災害たすけあいセンターの方も、復興を大きく進めるには専門知識、技能を有した介入が必要だとおっしゃっていました。

直接現地で作業ができなくとも、資金援助などで専門的なボランティアの支援をすることも大事だと思いました。ボランティアの方法は1つだけではなく、被災地の刻々と変化する状況によっても需要が変わります。今回の経験は、様々な角度からのボランティアについて考えるきっかけになりました。

島津

1日目 7/5

- 5:45 夜行バスで金沢駅到着
- 6:20 金沢駅集合、バス出発
- 9:30 能登町柳田地区到着
- 被災した住宅の荷物運び出し
- 12:00 昼食休憩
- 15:30 活動終了、バスで移動
- 16:30 ベースキャンプ到着
- 20:00 宇出津あばれ祭に連れて行ってもらう

2日目 7/6

- 8:50 ベースキャンプ発
- 9:30 能登町柳田地区到着
- 被災した住宅の荷物運び出し
- 12:00 昼食休憩
- 他のボランティアさんと交流
- 15:30 活動終了、金沢駅へ
- 18:15 金沢駅着、解散



家の解体のためには、家財を運び出して各自で処分する必要があります。その家財運搬や処分のお手伝いをさせていただきました。由緒あるお家に入らせてもらったり、活動の合間に家主の方からその家の歴史をお聞きしたりすることもできました。



輪島ベースキャンプ キャンプはボランティアや融資の方によって運営され、備品は支援物資で成り立っていました。教室内の簡易テントと簡易ベッドで宿泊させていただきました。



宇出津あばれ祭 宿泊日が偶然あばれ祭の日だったので、祭に参加させていただくことができました。県外に避難されている方もこの日は能登に戻り、切子を担がれていたようです。

参加前

ボランティアに批判的な報道や意見を見聞きしていたことで、災害援助の経験や専門知識がないと、派遣先で迷惑がられるのではないかと、役に立てることはあるのだろうか、と不安や迷いがありました。

活動中

被災地には、全国各地からボランティアの方、物資、支援金が集まっていた。どの形の支援も必要とされていました。

お金はあっても、物が売っていない 今は寄付金よりも物資がほしい

実際に人に来てもらう支援が一番ありがたい

ベースキャンプの運営者さん

ボランティア先の家主さん

参加後

物資支援、人的支援、金銭的支援はどれも生活を取り戻すために必要だと気づきました。そして、人や場所、また災害からの時間経過や被害規模によって、同時多発的に多様な支援が求められていることを知りました。このことから、どの支援も必要であるため、各々ができる支援をし、それを批判せずたえ合える人でいたいと思うようになりました。

もの ひと お金 すべて必要で、バランスが大事

被災経験のある人、知り合いを亡くした人、耳の間こえない人、各地のボランティアに参加している人etc...。活動中、多様なバックグラウンドのボランティアさんと出会い、お話をすることができました。一期一会の、地域を超えたつながりを尊び、ボランティア同士でも助け合う雰囲気の中で、貴重な体験をさせていただきました。



第1次能登震災・水害派遣

神戸大学ボランティアバスプロジェクトは2024年9月28日（土）～30日（月）の3日間、石川県輪島市へ派遣を行いました。学生3人は石川県の災害ボランティアに登録し、参加されたボランティアの方々とボランティアバスで現地に向かい、震災・水害からの復興支援を実施しました。

9月29日の活動

輪島市輪島、河井町での活動
河川の氾濫による浸水被害
床下の泥をかく

→下水が混じった臭気、土ぼこり
住宅の引っ越しお手伝い
弁当屋の冷蔵庫の整理、清掃
→腐敗した食物、浸水被害
・がれきの運搬、撤去



9月30日の活動

昨日に引き続き、弁当屋の清掃
泥のかき出し、フライヤーの掃除
調理器具類の泥落とし

